

变形

触れてしまったあと、元の形には戻れない。

誰かに触れたあと、  
人は大きく変わるわけではない。

ただ、  
以前と同じ角度では、  
立てなくなる。

変形は、成長ではない。  
何かを得たわけでもない。

広がったのでも、  
正しくなったのでもない。

むしろ、  
そのままではいたはずの輪郭が、  
静かにずれる。

共鳴を学びと呼ぶと、  
このずれは見えなくなる。

変形は、  
報告できる出来事ではない。

響いたのは、  
考え方ではない。

軸が、  
別の軸に触れてしまった。

それだけのことで、  
元の角度は保てなくなる。

目に見えるほどではない。  
言い表せるほどでもない。

けれど次に立つ場で、  
以前と同じ選択だけが、  
わずかに不可能になる。

変形したあとは、  
前より決めにくくなる。

迷いは増える。  
切り分けは遅くなる。

けれどそのかわり、  
他者を簡単に処理できなくなる。

輪郭が揺れたあとでしか、  
触れ方の精度は変わらない。

変わったのではない。

触れてしまったのだ。



Edition — 価値観の航路  
別景：変形

著者：美学思想家 古川玲奈  
発行：Raffiné  
2026